

絆

KIZUNA

中央大学公認会計士会会報 NO. 14

経理研究所の歴代所長のことも



中央大学商学部 教授
渡部 裕 亘

中央大学の昨年度の公認会計士試験の合格者は150名超であった。合格者が例年より増加したとはいえ、悲願の3桁の合格者を平成17年に続き達成し得た。そのうち、経理研究所に所属していた者は104名を数え、初めて3桁の合格者を輩出した。これは、学生諸君の努力もさることながら、木島淑孝所長を始めとするスタッフ一同、別けても小島一富士さんを筆頭として、吉田和広さん以下の講師陣の献身的指導の賜物である。これからも引き続き、指導に万全を期し、多大の成果を挙げてくれるものと期待している。そのためにも、先輩諸氏の絶大なるご助力をお願いしたい。

経理研究所は、学生の指導のみならず社会人教育にも力を注いでいる。会員制のA&Bフォーラムのほか各種の社会人向けの講座を神田駿河台の記念館で開設し、大学の社会に開いた窓として十分にその機能を果たしている。経理研究所がここに至るまでには、歴代の所長並びに関係者一同の努力があったればこそである。翻って、その功績を辿ってみたい。

初代所長は太田哲三先生であり、公認会計士講座、税理士講座、社会人向けの経理研究会、会計士補実務補習所を開設されるなど現在に至るまでの経理研究所の基本方針を確立された。太田先生が昭和38年に退任された後、井上達雄先生が就

任され、学生を対象としたCPA特別研究生制度を新たに創設し、当時断トツの公認会計士第二次試験合格者を出す成果を挙げられた。太田先生と井上先生は、経理研究所を当時「会計のメッカ」と呼ばれるまでに育てられたのである。また、忘れてならないのは、両先生を支えられた事務室長の菅原達雄さんの存在である。菅原さんは、経理研究所の独立採算制による経営に腐心され、大学から独立した機関として運営可能にされたのである。ちなみに、経理研究所は、現在でも学校法人中央大学の機構上は中央大学、附属高等学校などと並んで独立採算制を取る独立した機関となっている。その後、昭和40年代の大学紛争の影響で、経理研究所は会計士補実務補習所を閉鎖するなど活動を縮小せざるを得なかった。

井上先生が昭和53年に退任され、飯野利夫先生が第3代所長に就任された。当時、大学の多摩移転に伴う混乱期で、事務室が聖橋校舎から駿河台校舎、さらには大学会館、春日町校舎と移転を余儀なくされた時期で、飯野先生は大変苦勞された。こうした混乱期を乗り越え、現在まで経理研究所が存続し得たのは飯野先生のご努力のお陰である。

飯野先生の後、富岡幸雄先生が就任された。富岡先生は、春日町校舎や大学会館での社会人向け

講座のほか、多摩校舎で学生向けの簿記講座を開設するなど現在の多摩校舎での教育システムの基礎を作られた。富岡先生に次いで佐藤進先生が第5代所長に就任され、大学会館・多摩校舎での講座開設に加え、会員制のA&Bフォーラムの立ち上げ・経理研究所の機関誌『経理研究』の復刊など研究所の発展に尽くされた。それを受けて、小生が第6代所長となり、学生を対象としたCPA

特研を復活させ、公認会計士試験合格者の増加に努めた。その後、根本光明先生、次いで現在の木島淑孝先生が所長に就任し、研究所の一層の発展に努力されている。

なお、小生、本年3月末をもって中央大学を定年で退職いたします。在職中に賜った皆様からのご指導・ご鞭撻に深謝いたしますとともに厚く御礼申し上げます。

会員1,000名－100名参加 ～15年が経過して～

中央大学公認会計士会 会長
三 和 彦 幸



昨年6月25日開催の第15回定期総会におきまして会長の重責を仰せ付けられました。

今後2年間（もう既に半年以上経過しておりますが）微力ながら当会の運営を幹事会メンバーの強力なサポートを得まして担って参りたいと存じます。会員の皆様の絶大なるご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

当会は平成4年10月24日の創立総会により発足しました。スタートに当たり初代の川北 博会長は、“絆－創刊号”にて次の5つの運営上の基本的な考え方（会創生に当たっての共通の目的）を述べておられます。

- ・中央大学出身のCPAによるそれらのための会であり、特定の人やグループによって運営されてはならない
- ・より強く若い会員の参加を期待したい
- ・次元の高い人間集団となろう
- ・中央大学の会計学の学統を大切に実務家として研鑽する
- ・現会員のためだけでなく、中央大学やあるいは将来の会員である在学生のためにも事業展開をはかる

創立以来15年が経過した現在これらの当初目的の達成は一部を除いて甚ださびしいものがあり

ます。

会員数は当初の650名から殆んど増えておらず、会費協力者は250名から200名へと減少しております。

また、年間の事業も

- －定期総会（研修・懇親会を含む）
- －JICPA 研究大会参加・懇親会
- －大学対抗ゴルフ大会参加
- －大学主催合格祝賀会参加
- －年頭賀詞交換会（研修会を含む）

がルーティン化され、これらへの参加者も30～40名程度でメンバーも固定化（高齢化）してきております。

これらの最大の原因は一体何でしょうか。会の魅力が感じられないと言ってしまうかもしれませんが、やはり適度の発展すなわち、強く若い会員の参加が殆んど無かったからではないでしょうか。

昨年はCPA試験合格者も3000人近くなり、5万人体制を目指してこの傾向は当面続くことが予想されます。これを機会に、当会の会員も1,000名を目標として強く若い人達の積極的な入会を期待したいものです。現在、平成5年以降の合格者705名に対して入会勧誘のご案内を送付しており

ますが、新規登録はまだ10数名程度にとどまっております。現会員による身近な人達へのお誘いを是非よろしくお願いします。

行事面におきましても、親-子-孫世代が一緒になってのイベントはいい面もありますが、なかなか馴染めないところも出てきそうです。また、若い人達は日常業務が超多忙でウィークデーの夜にはなかなか参加できないことが多いと思われます。若い人達を中心とした、あるいは世代ごとの行事を企画するとか、開催日時を例えば土曜日の午後3時頃から等の工夫も必要です。

また、中央大学の先生方のゼミや経理研究所との交流を促進する行事等により将来の会員である在学生への当会のアピールも重要となります。

さらに、今年度は当会のホームページ開設の準備も予定しております。会員相互のコミュニケーションを密にして行事参加者100名を是非2年の間に達成したいものです。

創立15年の節目に当たり、会員1000名-100名の行事参加を実現し当初掲げた共通の目的の達成に向けて、再度、会員の皆様の絶大なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

第20回CPAゴルフ十月会に初参加して



公認会計士
佐藤 俊一

幹事の川和浩さんから今年もCPAゴルフ十月会の誘いを受け、根負けした形で会場の東急セブンハンドレッドクラブへ駆けつけたのは昨年10月7日のことです。驚いたことに参加者104名の大コンペで、早稲田大学の13名を筆頭に13学余、我が中央大学は早稲田について、専修、東京、法政と並んで10名でした。競技は個人戦（新ペリア）の他にネットとグロスの部の大学対抗戦があるという盛りだくさんの内容で、表彰式の席上次々と配られてくる3種類の順位表に戸惑ってしまいました。対抗戦の順位は参加者の上位4名の合計ストロークで決まりますから、参加者の多いほうが有利です。特にネットの部は、各人の隠しホールに当たる確率は同じでしょうから、その効果が顕著に現れます。

私は思いがけず個人戦で優勝しましたが、もちろん主役は団体戦です。結構対抗意識が表にでて、上位入賞校が発表されるたびに、大きな歓声が湧きあがります。ネット、グロスの部ともに早稲田が優勝、中央はグロスの部が6位、ネットの部では準優勝に入りました。ネット優勝校が次回幹事

とのことで、今大会の早稲田の幹事が優勝をよるこぶどころか、もう勘弁してくれと真顔で嘆いていたのが印象的でした。これだけ大がかりな大会ですから、幹事校だけでなく各校の幹事のご苦労は大変だろうと思います。幹事校が偏るならば、持回り制を考えるべきかもしれません。

定率と定数（定額）どちらが望ましいか。減価償却において長年論争されてきたテーマですが、ゴルフの世界も同じ問題を抱えています。コンペ参加者のハンディを決めるペリア方式とキャロウェイ方式には、ハンディを調整する係数として、それぞれ、定率と定数が使われています。本大会で採用された（新）ペリア方式の一般的な係数は0.8で、これは、レベル向上を願ってのことでしょうが、スコアのいい人に有利に働きます。ただ、本大会では、打数制限とハンディ上限が緩やかに設定されており、大会運営者の気配りを感じさせます。通常のハンディ戦では、優勝者のハンディは3割の定率カットが普通ですが、私は最近、優勝7、準優勝5、3位3、を減らす「定数法」を取り入れました。実力がほぼ安定した私達の会で

「定率法」を採用すると、上級者が有利になるからです。

法人税法は平成19年4月から、減価償却に250%定率法なるものの適用を開始しました。定率法といっても、定額法をベースにしたもので、一定期間は定額法償却率×250%の定率法、その後は定額法で償却するという何ともややこしく分類に困る方法ですが、両者の融合を図った妙案というべきで、いずれゴルフに援用されるかもしれません。私がゴルフの定率・定数に悩んでいた同じ頃、法人税立法関係者はこの妙案を捻り出すの

に、定率と定額を相手に必死に奮闘していたのでしょうか。

今大会の早稲田は、参加者が最も多いえにグロスで優勝しましたから、よほどの不運がない限りネットも制するのは当然といえるでしょう。今年も「優勝したくないのに」なんて言われてはたまりません。我が校がそんな早稲田に対抗するための最も有効な手段は、初参加の身で言うのも変ですが、参加者を増やすことであろうかと思っています。

「研修会&新年賀詞交歓会」を開催

公認会計士
三宅 博人

1月24日木曜日に研修会&新年賀詞交歓会(於：中央大学駿河台記念館)を開催しました。

研修会では、中央大学商学部教授の間島進吾先生をお招きし、「会計の国際的潮流」と題するご講演をいただきました。間島先生は、KPMG/NYを中心に、30年間に渡り国際舞台の第一線で活躍された公認会計士です。米国会計基準と国際財務報告基準(IFRS)の収斂に関する最先端の動向やわが国の対応等について、緻密かつコンパクト

にご説明をいただきました。昨年の11月15日に米証券取引委員会(SEC)は外国企業に対し同年11月16日以降終了する事業年度から、米国基準とIFRSの差異調整表の作成を要求しない旨の選択肢を認める決定を行いました。時機に叶ったテーマに、参加者からの質疑も闊達に行われ、好評を得ました。

続いて別室へ移動し、恒例の賀詞交歓会を開催しました。



当会の三和彦幸会長（あずさ監査法人副理事長）、福田真也前会長（証券取引等監視委員会委員）、藤沼亜起先生（日本公認会計士協会前会長）のスピーチの他、平成19年度の試験合格者の方々からは簡単に自己紹介をいただきました。本年度の合格者数は150名と過去最高でした。

多くの輝かしい経歴を持つ公認会計士を輩出している中央大学ですが、その伝統を受け継ぎ、若い人たちへ継承し、業界の発展、ひいては21世紀の日本経済へ貢献していくためにも、当会の一層の発展に向け、幹事一同、力を合わせ、努力精進を重ねていこうと誓い合いました。

公認会計士試験合格体験記

2004年商学部 卒業
飯島 瞬

「最後の砦」。——私は、いつからか、経理研究所の先生にそう呼ばれるようになっていた。それもそのはずである。私が会計士試験の勉強を何となく始めた当初からいたメンバーが、毎年、一遍にいなくなるのではなく、徐々に着々と合格して周りからいなくなり、18年度の合格発表が出た後、ついに独りになってしまったからである。「あんな奴も、こんな奴も合格するんだぞ！」って言われて久しいが、私はいつまでも合格できずにいて鉄壁のゴールキーパーのようだった。そんな私も19年度の試験で合格をした。ついに、名キーパーも点を許したのだ。

私は、現在、中央大学会計専門職大学院（CGSA）に通っており、今年の春、卒業を迎える。それもあって、会計士試験は今回が最後と決めて取り組んでいた。自分には区切りが必要と感じたからである。CGSAでは、私の今までのキャリアでは決して会うことができない先生、私のことを心配に気を掛けてくださる先生だけでなく、切磋琢磨する友人と知り合えた。これらの人のつながりは、合格までの回り道であったかもしれないが、掛け替えのないものである。だから、18年度の合格発表が終わった後、独りになった自分を救ってくれたのは、紛れもなくCGSAであった。

CGSAでは、実務に先立つ勉強はもちろん、社会人とのやり取りを交えて、自分の意見を口にする事の難しさを肌で感じ、学問は机上だけでは到底身につかないことを強く思った。また、コミュニケーション能力が問われていることも感じた。そのため、「早く合格しなければならない」という思いと共に、「早く社会に出なければ」という思いが膨らんだ。そして、思いが実を結んだ。

合格以後、多くの場で、自分の将来の会計士像について考えさせられる。私は、会計・監査の専門家としては国際化への対応はもちろんのこと、税務・アドバイザー・IT等、幅広い分野に対応できる会計専門家を目指し、CGSAの進学を決意した経緯がある。しかし、時代は国際化・取引の複雑化など、より専門性が問われる時代になってきている。また、会計士に求められる能力も幅広くなり、全てをやり遂げるなどとは言えない。だから、学んだことを生かしたい思いを胸にそのチャンスが来るまで精進しようと思う。

ただ、変わらぬ思いとして肝に銘じることは、自分の力で社会又は特定の人役に立てるようになる事、そして感謝の念を忘れないことである。今後も謙虚な態度で実務に就く所存である。

公認会計士試験合格体験記

2004年商学部 卒業
鈴木 景子

公認会計士試験に合格することができたことをとてもうれしく思います。

はじめにお世話になった中央大学の先生方、経理研究所の講師の方々には深く御礼申し上げます。また、合格するまでの間経済的にも精神面でも支えてくれた家族には本当に感謝しています。

私が会計士になろうと思ったのは、何か一生続けられる仕事を見つけたいと思ったことがきっかけでした。どうせ取得するなら中途半端な資格ではなく持っていて意味のある資格にしようと思いました。

会計士試験に合格するための道のりは予想していたよりもはるかに厳しいものでした。しかし、受験勉強の中で私が感じたのは、努力に応じて結果に結びつく試験であるということです。前年度の試験に落ちた時、確かに成績はぎりぎりでしたが、今ではそのまま受かっていなくて本当に良かったと心から思います。確かにそれなりに頑張っていました。しかし、それでも落ちたという事実と直面してどうしたらよいのかということを実際に考え、ゼロから自分自身を見つめなおして悪いところを改善していきました。勉強方法はもちろん、生活リズムなど自分なりにできる限りの改善をしました。受験生活を通して合格を手にするだけでなく、困難に直面したときの対処の仕方も学ぶことができたと思います。

それでも受験する環境としては、私は大変恵ま

れていたと思います。経理研究所の講師の方には、勉強だけでなく精神面においても支えて頂きました。さらに、講師の方々をはじめ経理研究所の駿河台記念館の仲間にも恵まれていました。勉強面で切磋琢磨しあうだけでなく、合格後のビジョンについて話したり世間話をしたりと、勉強だけでなく楽しみながら受験生活を送ることができました。最後の年は、意外なほど勉強だけでなく仲間とのコミュニケーションや趣味など勉強以外の要素以外とのバランスが取れていたと思います。自分自身の努力に加えて、経理研究所の講師の方々、受験仲間また家族の支えがあったからこそ合格を手にすることができたと思っています。

今、私は監査の現場に行かせてもらっています。見るものや聞くことが全て新鮮で何をやっても楽しいです。確かに、夜は遅く休日も仕事ということも多いですが、やり甲斐のある仕事に携わることができて毎日が充実しています。やはり苦勞したからこそ、このような感覚を持つことができるのだと思います。苦勞してよかった！と心から感じます。仕事においては、女性ならではの視点を生かしたり、男性にはない柔らかさを身に付けて仕事に生かしていけたらいいなと考えています。また、今後は英語も身に付けて国際的にも活躍できる会計士になりたいと考えています。

最後に受験生活を支えてくださった方々に再度感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

平成 19 年公認会計士試験 出身大学別合格者数

1 位	(1)	慶應義塾大学	411 名	7	(2)	東京大学	99
2	(2)	早稲田大学	293	8	(4)	一橋大学	94
3	(5)	中央大学	150	9	(8)	京都大学	73
4	(6)	明治大学	105	10	(一)	立命館大学	71
4	(9)	神戸大学	105	() は前年順位			
6	(6)	同志社大学	102	他大学の人数は日本公認会計士協会の調査による。			

2007 年公認会計士試験合格者 (150 名)

氏 名	学 部	在・卒	氏 名	学 部	在・卒
蒲蔵 宏明	商学部	2000 卒	鈴木 貴博	商学部	4 年在学
小野寺宏文	商学部	2007 卒	加藤 智也	商学部	2007 卒
平 菜々恵	商学部	2007 卒	川原 秀明	商学部	2005 卒
近藤 正輝	経済学部	2006 卒	松岡 大祐	商学部	2005 卒
日下部 貴	商学部	3 年在学	諸江 正彦	商学部	2003 卒
村田 貴恒	商学部	3 年在学	戸端 和央	商学部	4 年在学
中嶋 祐香	商学部	3 年在学	島田 明	商学部	2006 卒
柏木 秀樹	商学部	3 年在学	佐藤 友隆	商学部	2007 卒
中野 聡	商学部	4 年在学	青木絵理子	商学部	2007 卒
中島 弘貴	商学部	5 年在学	田口 信子	経済学部	2006 卒
鈴木 葉子	商学部	4 年在学	岩丸 涼一	商学部	5 年在学
古尾谷幸史	理工学部	2001 卒	請川 隼人	商学部	2005 卒
松岡 利直	商学部	2005 卒	杉本 玲子	商学部	2007 卒
浜名 一樹	商学部	3 年在学	片寄 智也	経済学部	2007 卒
泉家 章男		4 年在学	阿部 里香	経済学部	2007 卒
高頭 貴之	商学部	2005 卒	加藤 直樹	経済学部	2006 卒
竹村 亮	商学部	3 年在学	江藤 史朗	商学部	5 年在学
坂下 尚弥	商学部	5 年在学	藤澤 祐貴	経済学部	2005 卒
寶邊浩太郎	商学部	2006 卒	山中 尚平	商学部	2004 卒
三浦 二	商学部	4 年在学	中島 千絵	商学部	2005 卒
横手 義和	商学部	4 年在学	竹内 裕也	商学部	2007 卒
清野 勝弘	商学部	4 年在学	鶴田加代子	商学部	2005 卒
盛岡奈緒美	商学部	2007 卒	小針 才弥	文学部	
山田 隆仁	経済学部	1994 卒	小川 百子	商学部	4 年在学
星野 真里	商学部	2006 卒	飯島 瞬	商学部	2004 卒
金澤 優	法学部	1980 卒	稲毛 洋人	商学部	
三室 美佳	商学部	4 年在学	吉田 祐一	商学部	4 年在学
宮田 眞	法学部	1983 卒	依田 純一	商学部	2002 卒
三浦 務	商学部	2001 卒	鈴木 景子	商学部	2004 卒
山本 達也	商学部	2005 卒	中里 広光	商学部	2005 卒
横井 一輝	商学部	2005 卒	二宮 恭介	経済学部	2007 卒
小池 一	法学部	2002 卒	菅野 卓	商学部	2002 卒
大槻 孝俊	商学部	1998 卒	佐藤 智穂	商学部	2007 卒
天野 孝俊	法学部	4 年在学	井出 綾子	経済学部	2005 卒
西尾 忍	商学部	1998 卒	附田 麻美	法学部	2007 卒
宮野 一	商学部	2004 卒	中島 良典	商学部	2007 卒
山本 晋	法学部	2007 卒	加藤ちひろ	商学部	2007 卒
吉田 岳仙	経済学部	2002 卒	三浦 渚	経済学部	2005 卒
山根 幸司	理工学部	2000 卒	玉村 有喜	法学部	2002 卒
金子 郁雄	商学部	1995 卒	鈴木 滋	経済学部	1999 卒
渡辺 伸哉	経済学部	1997 卒	北川 雅朗		5 年在学
森山 一	商学部	2001 卒	大山 陽一	商学部	2006 卒
笠原 伸浩	経済学部	2004 卒	諸田 豊	法学部	2003 卒

氏名	学部	在・卒
大塚 健治	商学部	2002 卒
鈴木 華奈	法学部	2004 卒
井上 竜仁	商学部	4 年在学
齋藤 良太	商学部	4 年在学
八木 健裕	経済学部	2002 卒
今本真理子	商学部	2002 卒
大木 宣幸	商学部	2003 卒
齋藤 亮太	商学部	2005 卒
楨田 陽子	商学部	4 年在学
住吉 一樹	商学部	4 年在学
薄井 幹央	商学部	5 年在学
高橋 晴樹	商学部	2005 卒
田部井友貴	商学部	2006 卒
武藤 和敬	商学部	2005 卒
藤井 由康	商学部	1994 卒
竹田 佳郎	経済学部	2005 卒
中川 敬史	法学部	1993 卒
花木 完	商学部	2007 卒
山本 和紀	商学部	2007 卒
都築 遼子	商学部	2006 卒
豊田 好昭	経済学部	2004 卒
宮崎圭一郎	商学部	2001 卒
峯 一星	商学部	5 年在学
西村 哲郎	経済学部	2006 卒
薄井 学	商学部	2002 卒
福田 康	商学部	2005 卒
丸山 雅弘	商学部	2006 卒
青山 裕之	商学部	
堀江 駿	商学部	4 年在学
竹谷内 宏	経済学部	2002 卒
浜名 礼奈	商学部	4 年在学
佐藤 慶和	商学部	2003 卒

氏名	学部	在・卒
貝瀬 弘儒	経済学部	2003 卒
安藤 善教	商学部	2005 卒
藤井 貴之	商学部	2007 卒
加賀谷 祐介	法学部	1999 卒
大熊 智紀	経済学部	2003 卒
小林 正文	商学部	2007 卒
西原 健	商学部	2007 卒
齋藤 寿	商学部	2005 卒
伊香賀照宏	商学部	2007 卒
黒本 尚良	商学部	2004 卒
田中 法和	商学部	3 年在学
鈴木 博史	商学部	2004 卒
加藤 祐太	商学部	
田島 亘	商学部	2006 卒
千葉 幸夫	商学部	2007 卒
仲野 加菜	商学部	2007 卒
山浦 太一	商学部	2005 卒
岩崎 努	商学部	2006 卒
前田 大輔	経済学部	2006 卒
山本慎太郎	商学部	2002 卒
三上 真人	総合政策学部	2002 卒
走出 広章	商学部	2002 卒
流田 和典	商学部	2004 卒
鈴木孝太郎	商学部	2006 卒
平山 和仁	商学部	1995 卒
浅野 浩隆	商学部	2006 卒
斯波 雅文	商学部	2003 卒
香村 祥範	商学部	2000 卒
北本 哲也	経済学部	1999 卒
西 一	経済学部	2002 卒
鍋田 祐司	法学部	2003 卒
若井田 暁	商学研究科	2005 卒

編集後記

岸 田 靖

今冬は昨シーズンの暖冬とは打って変わって寒い日々が続いておりましたが、皆様のお住まいの地域はいかがでしょう。

やっと春の気配が感じられるようになって参りました。平成 19 年 11 月発表の公認会計士試験では 27 百余名の合格者が誕生し、平成 20 年 4 月からは四半期決算や内部統制監査が始まるなど、あまりの状況変化に目が回りそうな日々を過ごされている方も多いのではないかと存じます。

中央大学としての会計学の発展はもとより、公認会計士試験合格者の増加にも尽力され、また当会の設立に関しても中心的な役割を担われた渡部先生が本年 3 月で定年退職を迎えられるので、今回の「絆」では、特にお願いして、中央大学及び中央大学経理研究所の果たしてきた役割などについてご寄稿いただきました。編者も大学在学時代からことさら渡部先生にはお世話になっており感も一入の思いであります。

また、今期から三和会長、柏崎幹事長のもと、新しい体制で中央大学公認会計士会の運営をスタートさせております。新会長の三和先生には会長に就任されての取り組み等についてご寄稿いただきました。

恒例となっております CPA ゴルフ十月会の昨年の結果はどうだったのでしょうか？今年には佐藤先生にその模様についてご寄稿いただきました。佐藤先生も初参加であったようですが、もっと中央大学から参加者を増やしようとの呼びかけもありますので、是非と思われる方はご参加頂ければと存じます。

毎年、中央大学公認会計士会主催の新年賀詞交換会を開催しておりますが、今回はその模様を三宅幹事にご寄稿いただきました。残念ながら三和先生も書かれているように年々固定化（高齢化）している状況は否めないものがあり、もっと幅広い世代の先生方にご参加頂ける様に幹事としても工夫していきたいと改めて感じております。

当年度の会計士試験合格者の飯島さんと鈴木さんには恒例の合格体験記をご寄稿いただきました。合格者数が急激に増えている中、新人教育・研修あるいは OJT と言った問題を抱えている事務所や先生方も多いと思いますが、両氏のようなフレッシュな若者の思いを大切に育て発展させていくことは我々年長者の責務でもあると思います。

会員諸先生方の益々のご努力・ご活躍・ご発展を切に願う次第であります。

中央大学公認会計士会報 No.14

平成 20 年 3 月 11 日発行

発行人 中央大学公認会計士会会長

三 和 彦 幸

発行所

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台 3-11-5

中央大学駿河台記念館 4 階

中央大学経理研究所気付